

竹中加奈枝氏の学位審査結果の要旨

主査：近藤麻理

副査：宇都宮明美、大橋敦

本研究の調査は、2段階で実施している。調査1では、周産期における尿失禁と妊娠期の産科学的要因ならびに分娩期の医療介入要因との関連と、ヘルスリテラシーとの関連を明らかにすることを目的としている。産後1か月の初産婦233名を対象とした後ろ向きケースコントロール研究である。統計解析手法は、尿失禁の有症を従属変数、関連する妊娠期の産科学的要因と医療介入要因を独立変数としたロジスティック回帰分析である。

調査2では、骨盤底筋トレーニングの有効性を評価し、アドヒアランスの向上とヘルスリテラシーの発展につながる介入の可能性を探索的研究で評価している。非ランダム化比較研究で、腹圧性尿失禁を有する初妊婦（対照群と介入群の各43名）を対象とし、介入群には合計7回の健康教育を実施した。医療従事者が伝えた内容を理解しているかを対象者確認できる方法として、本研究ではteach backを採用した。ベースライン調査はMann-WhitneyのU検定、介入前後の2群比較はWilcoxon符号付順位和検定を用い、尿失禁量、生活の質、アドヒアランス、ヘルスリテラシーを分析した。

本研究の調査1の結果から、これまで更年期女性ほど注目されてこなかった尿失禁が、初産婦においても有症率が高く、QOLの低下に影響する健康課題であることが明らかとなった。また、一般に尿失禁の要因として認められた鉗子・吸引分娩には、関連が見られなかった。調査2の結果からは、teach backによる健康教育が、腹圧性尿失禁の改善に有効であることが実証され、今後の初産婦への尿失禁の予防と改善に寄与する可能性が示唆された。

本研究は、研究計画から結果、考察に至るまで、論文として一貫した論旨で構成されており、また、高度な学術的価値と新規性を有することで、今後の臨床応用への貢献が期待される。ヘルスリテラシーとアドヒアランス、cutoff 値、延伸等に関する用語についての確認、自分自身の考えを適切に回答していた。また、記載方法や文章の訂正などについても助言を行い、本論文の修正を確認した。

以上より、審査委員会では、本論文を看護学の発展に寄与する新規性があり、学術的価値を有する研究結果が見出されていると評価した。

本論文は、博士（看護学）の学位論文として価値があるものとし合格とした。